

事項	秋ギク「神馬2号」の11月出荷における品質向上のためには再電照を2回行うと効果がある		
ねらい	秋ギクの主要品種「神馬」から選抜された「神馬2号」は、低温で管理しても開花遅延を起こしにくく、開花の早い系統として県内産地に導入されている。この系統を用いた11月出荷の作型において、上位葉が小さくなる「うらごけ」を防止し、舌状花数を増加させて品質を高めるための再電照方法を明らかにしたので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 効果</p> <p>「神馬2号」は、11月出荷では「うらごけ」や舌状花数の減少が起こりやすいが、再電照を早めに開始して2回に分けて行うことにより、切り花のボリュームを確保して品質を高めることができる。</p> <p>2 方法</p> <p>「神馬2号」の11月出荷では、総苞片形成期～総苞片多数期から再電照を開始し、再電照を2回行う。「神馬2号」は原品種「神馬」に比べて花芽分化の進み方がやや速いので、消灯の8日程度後から3～4日間再電照を行い、その後4日間消灯して、さらに3日間再電照を行う方式を基準とする。</p> <p>また、電照時間は、22時から2時までの4時間を基準とする。</p> <div style="text-align: center;"> <p>消灯日まで 8日程度 3～4日 4日 3日 開花まで</p> </div> <p>3 注意点</p> <p>花芽分化の進み方は気象条件により多少変動するので、検鏡で確認する。</p>		
期待される効果	<p>1 需要の多い白色輪ギクにおいて県産花きの切り花品質が高まる。</p> <p>2 低温開花性系統の導入が進み、暖房費のコスト低減につながる。</p>		
利用上の注意事項	採花盛期はほぼ再電照を行った日数だけ遅くなる。		
問い合わせ先 (電話番号)	農林総合研究所 花き部 (0172-52-4341) 三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室 (0178-27-4444)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成21年度 調査研究結果概要書 平成22年度 試験成績概要集 (農林総合研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「神馬2号」と「神馬」における消灯後の花芽分化 (平成22年 青森農林総研)

品 種	花芽分化状態 (各分化ステージの個体数 / 調査個体数)	
	消灯後8日目	消灯後13日目
神馬2号	総苞片形成期(3/3)	小花分化期(5/5)
神馬(対照)	総苞片形成期(3/3)	総苞片多数期(4/5) + 小花分化期(1/5)

(注) 8月3日定植(無摘芯)。8月9日から22時~2時の4時間電照。9月21日消灯。



図1 キクの花芽分化 (岡田 1963)

表2 「神馬2号」の再電照方法と採花期及び切り花形質 (平成22年 青森農林総研)

再電照方法	採花盛期	切り花長 (cm)	花首長 (cm)	葉数 (枚)	90cm調整重 (g)
13 -	11月15日	124	1.9	55	65.4
8 - - 4 -	11月17日	125	2.2	55	78.8
再電照なし	11月11日	121	1.7	54	64.8

(注) 13 - : 消灯後13日から4日再電照。

8 - - 4 - : 消灯後8日から3日再電照、その後4日消灯して3日再電照。

定植日及び消灯日は表1と同じ。電照は22時~2時の4時間。

消灯日~10月10日及び11月8日以降は13 を、10月11日~11月4日は11 を下回らないように加温。

10月16日ビーナイン1,500倍散布。

表3 再電照が上位葉長と小花数に及ぼす効果 (平成22年 青森農林総研)

再電照方法	上位5葉の葉長 / 10枚目の葉長						舌状花数	管状花数
	1	2	3	4	5	平均		
13 -	0.43	0.65	0.72	0.75	0.77	0.66	229	41
8 - - 4 -	0.49	0.72	0.84	0.89	0.91	0.77	265	31
再電照なし	0.34	0.52	0.63	0.69	0.74	0.58	216	62

(注) 試験条件は表2と同じ。

表4 生産者ハウスにおける「神馬2号」の再電照事例

(平成21年 三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室)

作 期	再電照方法	採花盛期	切り花長 (cm)	95cm調整重 (g)	上位5葉の 平均長 / 10 枚目の葉長	舌状 花数
7月15日	8- -4-	11月19日	126	88.2	0.83	279
7月16日	12-	11月14日	112	94.3	0.72	202
7月22日	11-	11月29日	130	90.8	0.95	304
8月1日	8- -4-	12月5日	108	84.7	0.86	302

(注) 新郷村戸来の生産者ハウス。

10月23日から開花まで12 を下回らないように加温。

再電照方法の表記は表2に準じる。